資料３

令和２年９月定例会（付託）
文教厚生委員会資料
教育委員会

第２回・３回「新しい時代の特別支援学校の在り方検討委員会」会議概要

１　日時　第２回　令和２年７月２０日（金）　午後１時３０分から午後３時３０分まで
　　　　　第３回　令和２年８月２７日（木）　午前１０時から正午まで

２　場　所　　徳島グランヴィリオホテル　１階　ヴィリオルーム

３　出席者
（１）委　員　　１３名中（第２回は１３名出席，第３回は１２名出席）
（２）県教委　　教育次長，特別支援教育課長，事務局員５名

４　検討委員会委員から出された主な意見
（１）特別支援学校における新たな「教育内容」について
・障がいのある方の新たな職域の拡大に向け，オンラインショップやテレワークなどのICTの活用を積極的に進めていただきたい。
・企業との協働でプライベートブランドの開発を行い，自分たちで作った商品をお客様に説明して買っていただくなどの体験が大切だと思う。
・スポーツ，文化・芸術活動の卒業後の継続を見据え，在学中から民間団体と共に活動するような交流の機会を取り入れていただきたい。

（２）新たな教育内容を支える「教育環境整備」について
・宿泊施設や入浴施設等を備える特別支援学校は，地域の防災拠点となり得るため，防災機能の強化に向けた施設の充実をお願いしたい。
・屋外遊具の充実や運動場の整備を含め，体力を養うための運動環境の整備を是非考えていただきたい。
・医療的ケアなど障がいの重い児童生徒が増えているが，そのような人々が安心して過ごせるスペースなどを整備していただきたい。

（３）国府支援学校の在籍者数予測について
・委員の専門的な見地から「これまでの推移等を踏まえて予測すると，今後しばらく在籍者数の増加傾向が続く可能性が高い」との見解が述べられた。

（４）国府支援学校の機能強化について
・校舎の老朽化や狭隘化への対応を図り，児童生徒が安心・安全に学習できる教育環境の整備をお願いしたい。
・地域の方と交流するコミュニティスペースや，企業等と一体化したキャリア教育が展開できる，多目的で自由度の高い作業室の設置を検討いただきたい。
・「食品加工」ができる設備や，「ふらっとKOKUFU」等の福祉施設が進める「農福連携」の担い手になっていくための施設充実をお願いしたい。